

## 北陸地域連携プラットフォームでの議論を中間整理として公表 ～北陸地域の「地方創生」の一助として～

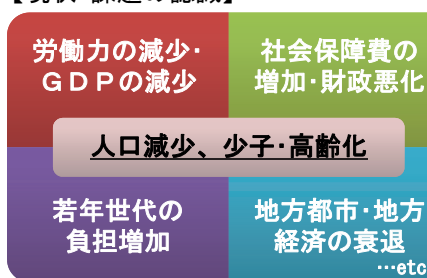
- ◆ 北陸財務局は、北陸地域にとって重要であると思われる課題等について、地域の産・官・学・金・言の有識者が意見交換・議論し、広く地域と共有・連携していく「場」として、「北陸地域連携プラットフォーム」を平成26年1月に立ち上げ。
- ◆ 同プラットフォームでは、人口減少、少子・高齢化について、7回にわたって議論（26年1月～27年6月）。第8回（27年12月3日）では、これまでの議論を取りまとめ、北陸地域の地方創生に向けた取組の一助にもなるよう、「北陸地域連携プラットフォーム 中間整理 ～北陸地域の「地方創生」の一助として～」を公表。
- ◆ 今後も、当局は、同プラットフォームにおいて、各地方公共団体・地域の地方創生に係る具体的な施策や取組をテーマに、北陸地域の真の創生に向けて何が柱として必要かを議論し、地方創生の一助として、より一層有用な情報を発信していく。

### 1. 成果事例の概要等

#### (1) これまでの議論の概要

- 第1～3回(平成26年1～6月)  
経済・財政、人口減少、少子・高齢化時代の社会保障、都市政策
- 第4～5回(26年11月～27年1月)  
北陸地域の先進的な取組事例
- 第5～7回(27年1～6月)  
国の地方創生の取組や北陸新幹線開業効果等

#### 【現状・課題の認識】



#### (2) 中間整理 (第8回：27年12月3日)

- 第8回では、同プラットフォーム後、中村信一座長(前金沢大学長)が記者会見を行い、第1～7回の議論を取りまとめた「北陸地域連携プラットフォーム 中間整理 ～北陸地域の「地方創生」の一助として～」を公表。



#### 【座長コメントより】

地域の将来は、地域で育まれた伝統、文化、価値観、地域資源などの下で、地域自身が考え、議論し、選択することにより、活き活きとした特色ある地域を形作って(創生して)いかねばならない。  
そのためには、北陸地域に住む一人ひとりが地域の将来に関する課題を共有し、そして考え、議論の輪が広がる中で、幸せを実感できる地域・コミュニティ形成への道筋を醸成させていく必要がある。

### 2. これまでの取組の成果等

#### ○ 「北陸地域連携プラットフォーム 中間整理 ～北陸地域の「地方創生」の一助として～」

- ・ 高校や大学、各団体の勉強会などでも活用できるよう、わかりやすいものになるよう工夫。
- ・ 中間整理では、「地域社会の在り方、暮らし方、価値観などを考え、地域固有の資源やアイデンティティを活かしながら、地方から戦略を描き出していくことが肝要」と提言。

#### 【北陸地域の「地方創生」の実現に向けて必要なこと】

- ①北陸地域の魅力の洗出し  
・ 魅力の洗出しと情報発信  
・ 弱みの洗出しと解消への努力
- ②女性がより一層活躍できる環境を整備  
・ 仕事と家事・育児を両立できる環境をより一層整備  
・ 女性の活躍の可能性を広げる
- ③北陸3県の連携による相乗効果発揮  
・ 3県がこれまで以上に連携し、魅力を磨き込む  
・ 周辺・関係自治体と連携、広い視野に立った企画立案・実行
- ④北陸新幹線開業という「追い風」を最大化  
・ 開業効果を永続的に、北陸地域の隅々まで波及させ最大化  
・ 今後の大阪までの全線整備を見据え、できることを準備
- ⑤金融機関や民間の手法を活用  
・ 金融機関の役割も非常に重要  
・ PPP/PFI等の民間の手法を活用

### 3. 今後の課題と北陸財務局の対応

#### ＜今後の課題＞

- それぞれの地域における課題解決に向けて、地域に根差した継続的な議論・意見交換の場としていくことが必要。

#### ＜今後の北陸財務局の対応＞

- 北陸地域の真の創生に向けて、伝統文化や観光など具体的な施策や取組をテーマに議論を行っていく。
- 石川県だけではなく、富山県、福井県での開催を検討し、より一層、地域とのつながりの拡大・深化を図っていく。